

# 上月りょうすけ ニュース

No.4 平成28年 夏



参議院議員上月良祐です。皆様には大変お世話になっております。

異例の早い招集となった第190回国会では、参議院自民党国対副委員長、内閣委員会筆頭理事等を務めて与野党調整等の国会運営にあたり、党では農業改革をはじめ成長戦略の実現に向け積極的に取り組みました。

これらの活動の大切なベースとなるのは、何よりも日頃地元の皆様からお聞かせいただく現場の生の声です。これからも茨城と日本の未来のために懸命に働きます。

ここでは、これまでの国会や地元での活動の一端を紹介させていただきます。

平成28年夏

参議院議員 上月 良祐



黄門様御一行・水戸の梅大使と共に総理へ「水戸の梅まつり」をPR



茨城と日本の農業の未来を切り拓きます(行方市にて)



八郷でのBBQ、筑波山を望む



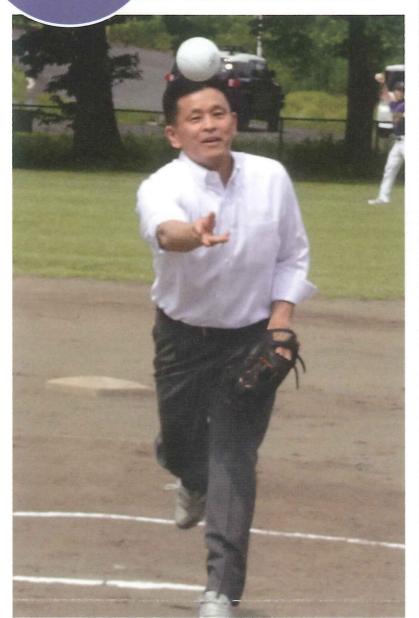
最先端医療の現場を視察(土浦協同病院)



笠間陶器祭(ひまつり)にて

茨城  
と共に

茨城のみなさんと共に歩んでまいります。



第54回水戸市民親善ソフトボール大会にて始球式



みとちゃん朝市にて



茨城県人会にて大子町のリンゴをPR



ロボット政策推進議員連盟副幹事長として、つくば産業総合研究所を視察



真っ黒に日焼けして岡田広先生の応援

◆入党資格

- 1.わが党の綱領、主義、政策等に賛同される方
- 2.満18歳以上で日本国籍を有する方
- 3.他の政党的党籍を持たない方

◆党員になると……

- 1.総裁選挙の投票権(総裁選挙の前年と前々年の2年継続して党員となつてゐる方)
- 2.機関誌「自由民主」を毎年お届け(家族党員を除く)
- 3.中央政治大学院の受講割引
- 4.ネット講座「自民未来塾」の無料受講

◆党費  
党員 年額4,000円  
家族党員 年額2,000円



上月りょうすけ プロフィール

昭和37年生まれ／昭和62年東京大学法学部卒／昭和62年自治省入省／平成17年茨城県総務部長／平成22年茨城県副知事／平成25年より参議院議員として活動中

Facebook で日々の活動を発信していますので、是非ご覧ください。 <http://www.kouzuki-r.com/>

## 上月りょうすけ

自由民主党  
茨城県参議院選挙区第一支部長 Email [info@kouzuki-r.com](mailto:info@kouzuki-r.com)

■茨城事務所  
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-3-4-202  
TEL 029-291-7231 FAX 029-291-8511

■国会事務所  
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1-704  
TEL 03-6550-0704 FAX 03-6551-0704

討議資料



笠間の栗をPR



会議後の記者会見



農林水産戦略調査会TPP地方キャラバン



新たな取り組みを行っている奈良県林業を視察



主査を務める農林水産業骨太方針策定PTで司会

党農林水産戦略調査会TPP地方キャラバン

## ▶ 大災害への対応は、平時から考えておくことが重要です!

### ■ 決算委員会(4月4日)

災害の大小が違っても、被災者にとって困難な状況は同じです。東日本大震災当時は副知事として復旧・復興に、また、昨年9月の関東・東北豪雨では党ワーキングチームの事務局長として農林水産業の災害対策に奔走しました。

常総市の水害では市内の中小の商工業者への支援は融資や保証中心となっており、廃業せざるを得ないと厳しい声も聞いています。地域経済の重要な担い手である商工業者に対する支援の充実を図る必要性を強く指摘しました。

また、しっかりした仕事にはそれに応じたコストがかかります。行財政改革の名の下で安易に低価格競争を招いては、地域の真面目な事業者の経営にも影響を与えかねません。一例として、消防設備等の点検・維持管理が著しく低価格で落札されることで、適切な点検整備がなされない懸念を指摘し、行革の中でも、特に防災・安全に意識を払う重要性を強調しました。

### ■ 復興原子力特別委員会(4月13日)

文化財は観光立国の大切な資源であり、その維持管理は非常に重要です。東日本大震災で大きな被害を受けた文化財、瑞龍山の復興整備を例に、大災害発生時の文化財復旧について、国の支援の必要性を質しました。

その翌日に熊本地震が発生し、熊本城をはじめ文化財にも大きな被害が生じたことには大変驚きましたが、私の指摘を活かしてもらえるよう力を尽くします。



復興原子力特別委員会理事として宮城・福島両県を視察



小泉進次郎部会長と熊本地震の被害を現地視察



常総市水害の現場視察



石井国交大臣とJA常総ひかりを視察

## ▶ 貸切バスの安全対策について提言する。

### ■ インバウンド需要と安全なバス運行について

昨年、外国人旅行者数が過去最高の2,000万人に迫るなど、観光産業は我が国の経済成長を牽引しています。そのような中、本年1月に大変痛ましい「軽井沢スキーバス事故」が発生しました。過去の大事故の経緯からも、一昨年来、国会や党の関係部会で貸切バスの安全性の問題について取り組んでいます。インバウンド需要を取り込む上で、移動手段の安全性確保は必須であるからです。

この問題を通して思うのは、規制緩和と安全確保のバランスの難しさです。

今回の事故は、規制緩和で新規参入した一部の悪質な事業者によるものですが、規制をあまりに厳格化すると、小規模ながら真面目に取り組む事業者にも影響しかねません。事業態様に応じて規制の「ハードル」の高さを適切に設けるべきです。

また、バス事業者と旅行業者がwin-winの関係を築きながらインバウンド需要を取り込んでいくようにしていかねばなりません。スクールバスの補助金不足の問題もこの規制のあり方と密接に関連しています。

安全性を確保できない事業者には確実に退場してもらうとともに、参入規制のあり方やルール遵守のチェック体制について、引き続き真剣にねばり強く取り組みます。



内閣委員会にて貸切バスの安全対策について質問

### 活動報告



党税調にて真剣勝負の発言中



参議院自民党国対副委員長として総理と面会



党中央政治大学院副学長として「第24回まなびとスコラ」にて講演



G1サミットにて、  
中山教授、石黒教授と共に



ブリュッセルEU本部へ  
調査のために派遣



石破大臣と電車内で意見交換



常総水害に際して森山大臣に要望